

令和5年度 第1回山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和5年10月23日(月) 9時30分
場 所	山鹿市役所(4階401会議室)
出席者	早田市長、堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員(欠) 市職員：大林総務部長、中尾教育部長、山崎福祉部長、園田教育部首席審議員、佐藤教育部次長兼学校教育課長、吉野首席教育審議員、永田教育総務課長、山西学校教育指導室長、内古閑学校教育指導室審議員、古奥学校教育指導室審議員、西島生涯学習・スポーツ課長、井上文化課長、田中健康増進課長、坂本教育総務課長補佐、中満学校教育課長補佐、長瀬学校教育課長補佐、堀生涯学習・スポーツ課長補佐、稲葉生涯学習・スポーツ課係長、徳永教育総務課長補佐
傍聴者	なし

1 開 会

2 議 題

「スポーツを通じた市民の健康づくり」について

3 その他

4 閉 会

発言者	発言内容
永田教育総務課長	<p>令和5年度第1回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「スポーツを通じた市民の健康づくりについて」となっております。</p> <p>本件議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開とします。</p> <p>また、会議の時間につきましては、1時間程度を予定しておりますので、ご協力の程よろしくお願ひします。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
早田市長	<p>皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>昨日、日本舞踊の伝承の会が熊本県立劇場でございまして私も見に行きましたが、最後に全国から集まって来られた先生方が一堂に山鹿灯笼踊りの創作舞踊を50人以上で踊っていただいて、もの凄く華やかで感動いたしました。今日の熊日新聞にも写真が載っていましたが、本当に山鹿を全国にPRしていただいたと思っています。そういう文化の季節でもありますし、スポーツの秋ということでスポーツに関する話を意見交換させていただきたいと思ひます。</p> <p>それでは、まず事務局より説明をお願いします。</p>
西島生涯学習・スポーツ課	<p>生涯学習・スポーツ課の西島です。</p> <p>議題の「スポーツを通じた市民の健康づくり」につきまして、説明をいたします。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>この資料は、昨年3月に策定されました「第4次山鹿市教育振興基本計画」より、生涯スポーツに関するところを抜粋したものです。ページ数字は計画書のページをそのまま記載しています。</p> <p>まず、12ページですが、計画書の第2章、山鹿市における教育の現状と課題に、4、生涯スポーツの現状と課題として、①スポーツ振興と、②スポーツ施設の充実と新たなスポーツの取組を記載しています。</p> <p>それぞれに本市の現状と課題を記載のとおりまとめております。</p> <p>このような生涯スポーツの現状と課題を含む、山鹿市における教育の現状と課題を踏まえまして、資料の右ページ、14ページのとおり、本市の教育の目指す方向として、記載の基本理念を設け、その基本方針として、Ⅰひと輝く、Ⅱきずな結ぶ、Ⅲみらい彩る、を設けてそれぞれに基本目標を掲げております。</p> <p>裏の左のページをご覧ください。15ページになります。</p> <p>施策の体系として、基本方針Ⅰの「ひと輝く」の基本目標の二つ目「確かな学力と健やかな体の育成」の主な取組施策に、「Ⅰ-4生涯スポーツの振興」をあげております。</p> <p>その施策の目的や内容については、右のページ、19ページをご覧ください。</p> <p>中段の事業の取組内容のところに、生涯スポーツ推進事業として、3点あげております。</p>

1点目に、「山鹿市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツを通じた交流の場、多種多様なニーズに応じたスポーツ機会の提供など、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努める。

2点目に、子どもの体力づくり、スポーツへの関心を高めるため、遊びながら体力の向上が望めるACPを実施、学校と連携し、児童生徒へのより多い運動機会の提供に努める。

3点目に、各種スポーツ団体に対し、スポーツ活動に関する情報や研修機会の提供などの支援を行う。としています。

次に、資料2「山鹿市スポーツ推進計画（概要版）」をご覧ください。

ご案内のとおり、本計画は、本市におけるスポーツ推進の基本的な方向性を示すもので、「山鹿市総合計画」を上位計画として、「山鹿市教育振興計画」との整合を図り、本市のスポーツに関する施策を具体的に示す個別計画として、昨年3月に策定しています。

右のページをご覧ください。本計画では3現状から見た課題として、3点についてそれぞれに課題をあげています。

特に本日のテーマ「スポーツを通じた市民の健康づくり」に関連するものとしては、「3の1生涯にわたってスポーツに取り組むために」にあげている、課題の①から③の3点ではないかと思えます。

次に、裏面をお願いします。

それらの課題に対して、本計画の4施策の展開として、記載のとおり、基本理念と4つの基本方針をかかげています。中でも、基本方針1「やってみよう！（「する」スポーツの推進）の、「1. 次世代を担う子どもの運動・スポーツの推進」、「2. 高齢者のスポーツを通じた生きがい活動の充実」、「3. 誰もがスポーツの楽しさ・学びを体感し継続できる施策の展開」、「4. スポーツ施設の整備と活用」が、今回のテーマ「スポーツを通じた市民の健康づくり」に関わる場所ではないかと思えます。

この、「する」スポーツの推進につきまして、現在、生涯学習・スポーツ課で取り組んでいる具体的な事業としましては、①市内小学校（低学年）や保育園・幼稚園の児童を対象とした、遊びながら楽しく体を動かすACP事業、②市内小学校（6年生対象）でのハンドボール教室、③小学校での体育サポート事業（水泳指導）④子育て世代の親子、父親・母親とその子どもを対象とした運動プログラム、運動習慣化モデル事業の実施、⑤市民が安全・安心に利用できるスポーツ施設の整備、老朽化に伴う改修・改築などに取り組んでおります。

また、市内の各種スポーツ団体、スポーツ協会・総合スポーツクラブ・スポーツ少年団、スポーツ推進委員協議会などにおいても、それぞれに、様々な事業や活動を展開されております。

しかしながら、「する」スポーツの推進の2と3にあげている、高齢者及び障がいのある方を対象とした具体的な取組が、なかなかできていない状況にあります。

今後は、これらの取組について、福祉部サイドの関係各課などと連携を図りながら、取組を推進していかなければならないと考えております。

「スポーツを通じた健康づくり」につきましては、子どもから大人まで、また、高齢者や障がいのある方を含めた市民の誰もが、スポーツの楽しさや学びを体感

	<p>し、継続できる施策を展開していくことが、すべての市民の健康づくり、健康増進に繋がるものと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p>
<p>早田市長</p>	<p>今、健康づくりについて説明をしていただきましたが、来年度に健幸都市宣言を打ち出して市民の健康寿命を延ばそうということで来年度から動き出そうと思っています。その中で本日は福祉部も出席していますが、例えば食事療法や簡単な運動などは福祉部で検討されていますが、教育委員会が絡んだ時に教育委員会としてどういったことが市民の健康づくりに繋がるのか、そういったことを教育委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>私が思っていますのは、健康のこうは幸の健幸で打ち出したいと思っています。これは高齢者だけではなく生まれた時から健幸であってほしい、そして病気をせずに人生を全うしてほしいという思いで健康寿命の目標を立てて取組んでいきたいと思っています。</p> <p>健康都市寿命は熊本県では数字が出ていますが市町村では数字が出ていません。それを山鹿市独自で健康寿命の年齢を出して10年後は何歳延ばすというような目標を掲げて赤ちゃんからお年寄りまでの取組をやっていきたいと思っています。</p> <p>例えば10年後に山鹿に住むと長生きできるとか健康になる等のイメージづくりと言いますか、そういったことで選ばれる山鹿に繋げていきたいという思いがありますので、いろんなご意見を聞かせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>野口委員</p>	<p>今、話を聞いて最初のこの議題で私が感じたこととちょっと違いました。福祉部長や健康増進課長が来られていますので、健康づくりについてもっと深掘しなればいけなかったのかと思いましたが、最初に課長が言われましたようにまずは小さい時から体を動かす、スポーツに親しむということをもっておこななければいけないと思います。</p> <p>スポーツや体を動かすことに関しては、知見が乏しく、こうですよという話ではできませんが、行政の仕事はいろんな事へ取組む機会の提供、情報の周知、それらを可能とする人づくり物づくりが基本だと思います。</p> <p>資料の最初にあるように、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり、親しむことができる山鹿を創っていくために行政として何をすべきなのかと思います。具体的にどう考えていけばいいのかということです。なかなか難しいのですが、敢えて言うならば「気軽に」というところが一番大事だと思います。広げていくために重要なポイントだと思っています。</p> <p>そのために力を入れるのは、やはり人だと思います。指導者の育成のために行政としては汗をかくべきだと思いますし、その指導者も気軽に取組めるということを手頭に入れて取組んでほしいと思います。</p> <p>身近な例ですと小学校のランランタイム等のグラウンドをみんなで走るようなことを基礎体力向上のために取組まれています。これはこれで大事ですが、指導者が変わると大鬼ごっこ大会に変わったりします。そうすると「気軽に」近づいてきます。</p>

	<p>小学生を対象としたスポーツクラブがありますが、これは殆どの方が自分の仕事が終わった後に指導に来られますので、取組は平日の遅い時間になります。遅くなったら「気軽」には繋がらないと思います。地域で行われているウォーキング大会等も工夫ができないかと思います。</p> <p>携わっている人、特にスポーツの指導者はみんなが気楽に、もっと気軽に楽しく取り組めるという認識を入れていただけるようにやっていけないかと思います。</p> <p>残念ながら具体的にこうしたほうが良いという知恵が回りませんので、事務局で県内外のこういう事例がありますということや、こうして広まっていますなどの事例をお持ちであれば出していただくと私たちのイメージも湧いてきます。それを参考にして山鹿版を考えていけばいいかと思います。たたき台がなければ、皆さんも困られたと思います。</p> <p>まずは指導者の頭の中の切り替え、指導者の育成について取組めないかと思いました。</p>
早田市長	<p>いま「気軽に」というキーワードが出たと思います。少し学校の話もありましたが、私も選ばれる山鹿の話をするときに山鹿の教育は学力も体力もトップクラスだという話をします。実際はそうですか。何か数値等がありますか。</p>
吉野首席教育審議員	<p>体力テストの数値はあります。県平均は上回っています。</p> <p>ただトップクラスかという点、そこまではなかなか言えない現状です。私たちの分析ではスクールバスの影響もあるかと思います。</p>
早田市長	<p>どこか苦勞されている学校がありますか。先ほど人づくり、指導者の育成という話がありましたが、この先生は気軽にやっているなどの例がありますか。</p>
吉野首席教育審議員	<p>めのだけ小学校には体育専科という体育だけを教える先生がいます。1年生から6年生まで全てを見ていらっしゃるから発達段階に応じた指導をなさっています。今は、めのだけ小学校ですが、国も専科について言っていますので体育専科が山鹿にも配置されるようになると、課題を見つけて課題に応じた指導ができていくのではないかと思います。</p>
早田市長	<p>それは学校の先生ではないのですか。</p>
吉野首席教育審議員	<p>体育だけの先生です。中学校は専門の先生が居ますが、国は小学校の高学年をターゲットにして専科を取り入れていこうとされています。その中で、めのだけ小学校は体育専科が配置されましたので結果が変わってくるのではないかと思います。</p>
堀田教育長	<p>それが山鹿独自の特色ある取組なのか、どこでも手を挙げて体育専科をいれてあるのかは調べておいてください。</p>
野中委員	<p>私はこの題を頂いたときに、教育委員会の立場で何を考えてくればいいのかとすごく悩みました。ですが市長のお話を聞いてそういうことだったのかと、そこから下りてきていけばもう少し出せるものがあったとは思っています。</p> <p>漠然としたままここに来てしまいましたので申し上げる特段のことはないのですが、思ったのは市民の今の実態の細かい把握はできにくいのかと思いながらも、健幸都市やまがという視点からの市民の実態把握は何とかできないものか、計画には数値化されて出てきたほうが見やすいので、根拠になるものがもうちょっと欲しいと思ったところでした。</p> <p>それから先ほどの話を伺いながら、学校は教育課程、いわゆる国家的に動いてい</p>

	<p>ますので各学校の体力テスト等のデータから実態を見て体力を上げようといういろんな取組をしますが、日常生活の中で出来ることもありますし、今、多くはプラス<math>\alpha</math>で取り組んでいます。プラス<math>\alpha</math>は何かと言いますと時間割の外の部分に何かを入れて、そうすると全校的な取組になるので中学校あたりですと体育主任が中心にやっていますけども朝から勤務時間外でやっていたりしていますので、そこに重度の期待をかけると働き方改革とのすり合わせが難しくなってきます。</p> <p>ですからそれを思うと「気軽に」とおっしゃったけど、確かにそこが肝になると思います。学校の中でもです。小学校の中でも体育主任が中心でやっても結局教員全員駆り出されてやっています。その辺の負担は考えていかなければならないと思います。</p> <p>先ほど健康づくりのことで福祉部との連携をおっしゃっていましたが、そのすり合わせをどう繋いでいくのかが大事だと思います。</p> <p>教育委員会として何ができるのか、今はまだ整理できていませんが、ちょっと思ったのは山鹿の温泉のことと関わりを持たせられないのか、特に高齢者です。これだけの温泉という自然を持っていますので健康寿命を延ばすこととの関わりを科学的な知見のある方にご助言いただいでできないかと思ったところです。</p> <p>それから、私は「ハンドボールの街やまが」と言うならば、もう少し見えるようにしないといけないと話をしたことがあります。最近ラッピングバスがあったり、競技についても、学校における取組でもできてきたとは思いますが、私たちが学校経営をするときに学校に一步足を踏みこめば、その学校が何を大切にしているのかが見えるように学校づくりしていこうというのがあります。</p> <p>それと同じではないかと思います。山鹿に遊びに来る、観光に来る、その時に山鹿市がこれを大事にしているのだともっと外からも見えるようにする必要があります。</p> <p>昔、もう少しどうにかしないといけないという話をした時には、山陰の方のある町のハンドボールの街を紹介したと思いますが、資料を探していたら「ハンドボールを核とした街おこし」というレポートがありましたので、どなたかに渡していこうと思いますが、読んだときに非常に興味深く思いました。富山県氷見市です。調べていらっしゃるでしょうか。</p>
西島生涯学習・スポーツ課長	以前、氷見市については確認していたところです。
野中委員	<p>取組についてこれを中心にしてやっていくというのは見えるようにしていけないと市民の意識も上がらないです。</p> <p>何らかの形で成人高齢者ぐらいに分けて、どういう実態なのかが出てくるともう少し話がしやすくなってくると思います。</p>
早田市長	<p>4の施策の展開の「やってみよう」ですね。ここが具体的にどういうことをやっているのかが健幸都市やまがにどう繋がっていくのかだろーと思います。さっき温泉のことを言われましたが、それを考えると昔温泉プールがあったのは画期的だったのかもしれない。</p> <p>次は、上田委員ご意見ありませんか。</p>

<p>上田委員</p>	<p>このテーマを頂いたときに何をお話しできるかと悩んだところですが、このスポーツ推進計画の3、現状から見た課題に3つ挙げてありますが、「何とかが必要です」、「機会の提供や働きかけが必要です」、「何とかを整えるとともに何とかをする必要があります」と出てきています。</p> <p>この計画は令和4年度から1年半ぐらい経っていますので、現時点でどれくらいできているのか、さらに今の時点で課題は何なのか、そのあたりを検証していかないとそれから先に進めないと思います。</p> <p>この課題を解決するためには、今までにこういう取り組みをしてきました、その状況はどうです。もっと具体的に、今からどうやってそのあたりに力を入れて行くのか、それを見える化しないとなかなか漠然として、やります、どれだけやったのか、何も分からないままにもっと意見をとと言われても難しいと思いました。</p> <p>子どもたち、ビジネスパーソンの世代、高齢者障害者のスポーツの推進と考えた場合に学校関係は体力テストを基に先生方が一生懸命考えて、どこが落ちているからどういうふうにするかを考えてくださると思います。お忙しい世代の方たちは毎日が生活するために仕事を頑張る、子育てをする、それで精一杯だからなかなか自分のスポーツというところまではいかない人が多いと思います。</p> <p>今、一番の課題と思っていることは高齢者と障がい者です。山鹿市もかなり高齢化してきておりますから、市長もおっしゃったように健康寿命を延ばすということで考えた場合に、ここの高齢者がいかに、「市民の誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり」が求められている。じゃあ、そのために具体的にもっとどうするのが行政の役割と見ていました。</p> <p>子どもたちの場合、スクールバスによる運動能力の低下は、以前、他所の学校が統合したときに確実に体力が落ちているという結果が出たので、そこは地元から学校までの距離は止めて途中で降ろされて、そこから歩かせたら体力が回復してきたという話もあります。</p> <p>ですから統合して何年かはなかなか難しいのかもしれませんが、徐々にある程度のところで降ろして、もともと居る学校の近くの子どもたちが歩いている距離ぐらいは歩かせてもいいのではないかと思います。</p> <p>高齢者のいつでもどこでも気軽にということですと、どこかの市で公園に子どもたちが遊ぶ遊具のような高齢者向けの体づくりの施設がいろんなところに置いてあります。高齢者が散歩しながら公園に来て、それを一生懸命やっておられるのを見てうらやましいと思いました。</p> <p>ただ、お金もかかるでしょうから難しいとは思いますが、そういうものがあれば高齢者が気軽に楽しみながら体力をつけることができると思いました。</p> <p>次に、オムロンピンディーズとの連携した取組みということで、以前ハンドボールがとても強い学校がその地域に2つありまして、中体連などで試合をすると物凄く活気があって、それぞれが素晴らしいパフォーマンスをします。素晴らしい技術だということ。そういうところに山鹿市はまだそこまでっていない。せっかくオムロンピンディーズがあるのに連携していろいろ取組をしていただいています。もっと山鹿市としてできることはないかと思います。</p> <p>市民皆がハンドボールの大会があると思ったら応援に行くというような盛り上</p>
-------------	--

	<p>げはできないかと思いました</p> <p>それから質問ですが、スポーツ推進計画の5、数値目標の指標で基本方針1の②学校体育以外での小学生の週1日以上スポーツ実施率とありますが、学校体育以外というところを詳しく教えていただきたいです。</p>
西島生涯学習・スポーツ課長	<p>学校体育以外では学校の体育授業以外になりますので、クラブでスポーツをされているとか、クラブも総合スポーツクラブであったり、種目ごとの少年野球であったりスポーツ少年団あたりでされているなどの部分になってくると思います。</p>
上田委員	<p>部活動は入れずに学校体育以外で夜などにされているクラブ的なものということですね。</p>
西島生涯学習・スポーツ課長	<p>教育の一環でされている体育の授業、部活動以外になります。</p>
上田委員	<p>それが57.3%あるのですね。</p>
西島生涯学習・スポーツ課長	<p>はい。</p>
早田市長	<p>さっき言われた、見える化ですね。数値的にどうなったのか、良くなっているか悪くなっているのか見えないと分からないので、数字の出し方も今後工夫していかなければと思いました。だから指数目標も、もっと項目があってもいいのではないかと思います。</p> <p>健康のこうは幸せの幸ですので、例えば小学校で言うなら不登校の数が山鹿は2.09%、平均が3.69%となっており、山鹿は低いのではないかと思います。全体からすると一番いい方ではないかと思います。そういうのは健全な心身を目指す上では、数値的に見える化になるのではないかと思います。</p> <p>そのように山鹿が他所に比べて良いことを数字にして発表する。表に出せるものはどんどん出していった方がいいと思います。</p>
堀田教育長	<p>今、上田委員が言われたように、4年から始まった計画ならどこまで進んだのか、1年経ってどこまでできているかということを確認しておかなければいけません。</p> <p>子どもたちの体力低下については、教育の部分ですので私たちに任せたいと思います。統合が始まったときに必ず来る課題は体力の低下でした。スクールバスを出さないといけないことは決まっていたので、そのハンディは体力低下としてくると思っていた。</p> <p>実際にスクールバスを走らせてみて、学校からどうにかしてくださいと言われてます。鹿北小中学校からは、上田委員が言われたように先生方は途中でスクールバスを降ろさせてほしいと教育委員会へ言われました。ですが、教育委員会としては言えません。途中で降ろして歩かせることは、教育委員会としてはスクールバスが統合の条件でしたから、ぜひ保護者や子どもたちから体力の現状を申し上げて、途中から歩かせることはどうかと投げかけるように言っています。</p> <p>する・みる・ささえるスポーツを行政として何をしなければならぬかというのは、私は施設の整備だと思っています。現状を考えたときに、いつでもどこでもだ</p>

	<p>れでもスポーツに親しむ環境が整っているかという点と整っていません。これはすぐにはできません。かなりのお金がかかりますから順番に計画をさせています。</p> <p>夏の運動は空調の問題が出ました。高齢の方が求めているのはプールです。せっかく温泉があるので温泉プールを造ってほしいという意見もあります。ですから皆さんが言われたことは掴んでいるつもりですが、それを見える化して教育委員会だけではできませんので、市長とも話しながら順次こういうことでやっていきたいということを明確にしないとイケなかったと反省しています。</p>
早田市長	<p>私も毎日3階まで階段で上がっています。毎日のことですので結構運動になっていると思います。学校でも階段を利用して子どもたちが気軽にできるようなことをするとか、なにか今あるものを使ってできそうな気がします。アイデアを出して、そういうことが子どもたちだけではなくお年寄りにも通じることがあると思います。</p>
堀田教育長	<p>野中委員からも出ましたが体力低下でその取組をすると他の時間を取ってしまうので、学校の時間が窮屈になってしまいます。</p> <p>この前、学校訪問に行くと肥満児が増えていて、以前はこんなことはなかったと言っていたのですが、歩かなくなったことがもろに出ています。</p> <p>担当は朝から毎日走る時間を作るなど、学校は学校でそれなりに考えてやりますが、この時間をここで作るならここを削らないとイケないとなりますので、何に力を入れるのかを学校には集約させています。片や学力の向上と言うので放課後に学力タイムを作ったりしています。とにかく一杯いっぱいになることは避けさせたいと思います。</p> <p>スクールバスは鹿北から意見があっていました。保護者が理解して成功するならいいですが、心配していますのは学校の登下校は学校の管理下になります。ここで事故があったら教育委員会の責任です。ある方はそこで降りたら一人で帰らないとイケなくなるので、もう少しスクールバスに乗せてほしいなどたくさん御意見がきます。もし事故があったら責任になりますので認めざるを得ないため、だんだん甘い方にきています。クリアしないとイケない課題が多いと思っています。</p>
野中委員	<p>小学校統合の時におりましたので、そういう話はバスを出す時からありました。</p> <p>そうなってくると教育長がおっしゃったことと、もう一つは歩かせる分の時間は保護者が手前に持ってきて、食事を作ってご飯を食べさせて行かせないといけません。一か所モデルですることも考えられますが、山鹿市全体がスクールバスでの登下校になってきていますので、個の問題が入ってくることを見たら今の形は崩さないで他の方法でやれないかと具体案はないのですが思っています。</p> <p>もう一つは、ここにはスポーツと出てきましたので考えにくいですが、先ほど市長さんが言われた健幸の幸を考えますと、どうしても食のことが入って来ざるを得ないと思います。「早寝早起き朝ごはんテレビを消して外遊び」という標語を学会の方からいただいたことがあります。いま外で遊んでいる子どもをほとんど見かけません。それは一つには時間的な制約もありますし、推進していく中で文化活動に属している子どもたち、なんとなく苦手だからというのものもあるし、文化活動が好きだからということで放課後入ってくる子どもたちもいます。その子たちも体力づくりに関心が持てるようにしなければならないです。</p>

	<p>両方に関係するような部分を小学校ではもうちょっと外遊びの推進等でカバーできることがあるのではないかと思います。</p> <p>どうしてもそこに見えているものだけにいきますが、実はそこに関わるいろんなことがあります。スポーツだけで体力ができていく訳ではなく、食の部分も入ってきますのでかなり総合的に考えなければいけないと思います。</p>
早田市長	<p>食の部分は福祉部が検討しています。例えば宇城市さんは、さしよりビールではなく「さしより野菜」を食べようという運動を始められています。企業を含めて全部でされています。そういうことを真似しても面白いと思っています。</p> <p>また、今は人手が足りないので食の関係で子どもたちにいろんな農業体験をさせながら体力づくりにつながり、農家も助かるというような取組をしてもおもしろいと思います。</p> <p>山鹿ならではの取組を考えてもらおうとおもしろいと思いました。</p>
堀田教育長	<p>上田委員からもありましたが、高齢者の方が増えていますので、見る楽しみもよく言われます。市民の方から土日は人がいっぱい来ているけど何があっているのかと聞かれます。担当にはせっかく県大会や九州大会や全国大会を積極的に誘致しているので、市民に対して広報をどうかしなさいと言っています。</p> <p>カルチャーには看板を建ててもらいましたが、市役所でも市民が来られた時に今度の土日は何があるということが分かるように市役所内にも設置をお願いしたいと思っています。</p> <p>もう一つは防災無線を使って家にいる人たちにも広報をしたいと思いましたが、それはできないと言われました。市民への広報についても何か考えていかなければならないと思っています。何か流す方法は他にありますか。</p>
大林総務部長	やまがメイトがあります。
堀田教育長	高齢者は、やまがメイトを見えていますか。
大林総務部長	登録者数はそんなに多くはないです。
堀田教育長	高齢者には運動はできないけど、見るのは好きだという方がかなりおられます。その人たちにもっと何かできないかと思っています。
早田市長	年間を通してスタンプラリーのようなもので、会場に行って押しってもらってスタンプが貯まったら商品がもらえるようなものがあるといいですね。
野口委員	そういうものがあつたと思いますが。
田中健康増進課長	<p>はい、行っています。</p> <p>ただスマートフォンのアプリを活用して行っていますので、高齢者の方にはハードルが高いかもしれません。</p>
早田市長	それは何年前からされているのですか。
田中健康増進課長	熊本市を中心とした連携中枢都市圏形成の中で行っていて2年目になります。
早田市長	どのぐらい登録されていますか。
田中健康増進課長	登録は1,200人ぐらいです。ちょっと伸び悩んでおり、周知が足りないところはあるかもしれません。

早田市長	その辺を伸ばしていくといいかもしれないですね。
田中健康増進課長	紙でも登録はできるシステムにはなっていますが、なかなか増えておりません。
早田市長	それが広がっていないということですね。商品は何が当たるのですか。
田中健康増進課長	参加自治体を選んだお肉や栗などの特産物を景品としています。 山鹿はそれぞれの物産館別に野菜の詰め合わせやパンの詰め合わせ等をだしております。
野中委員	山登りによく行くのですが、山に登ったら紙ですけどスタンプを押して貯まったら何かもらえるというものがあります。外に出すということが大事だと思います。
早田市長	そうですね。気軽に別のことをしていたら結局は運動になっていたというのもいいと思います。
上田委員	この地区のこの辺りを歩いていけば面白いし、体力づくりにもなりますというような紹介をしていただくと、自分の家の周りばかり歩いている人たちも、例えば菊鹿のあの辺りを歩いて、体力づくりをして楽しめるということを紹介してもらおうと面白いと思いました。
野中委員	そういう山鹿のウォーキングマップみたいなものはありましたよね。
田中健康増進課長	はい。ウォーキングマップを校區別に作ってあります。 ホームページにも掲げています。
早田市長	季節ごとにここを通ると季節の花がきれいとかが分かるといいですね。 その辺は市民への周知をもっと行ってください。 他に何かご意見等はございませんか。
各委員	ありません。
早田市長	それでは、これで意見交換を終了したいと思います。 その他で事務局から何かありますか。
事務局	ありません。
早田市長	それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。 以上で議事を終わります。
永田教育総務課長	本日の会議の全日程は終了いたしました。 これをもちまして、令和5年度第1回山鹿市総合教育会議を終了します。